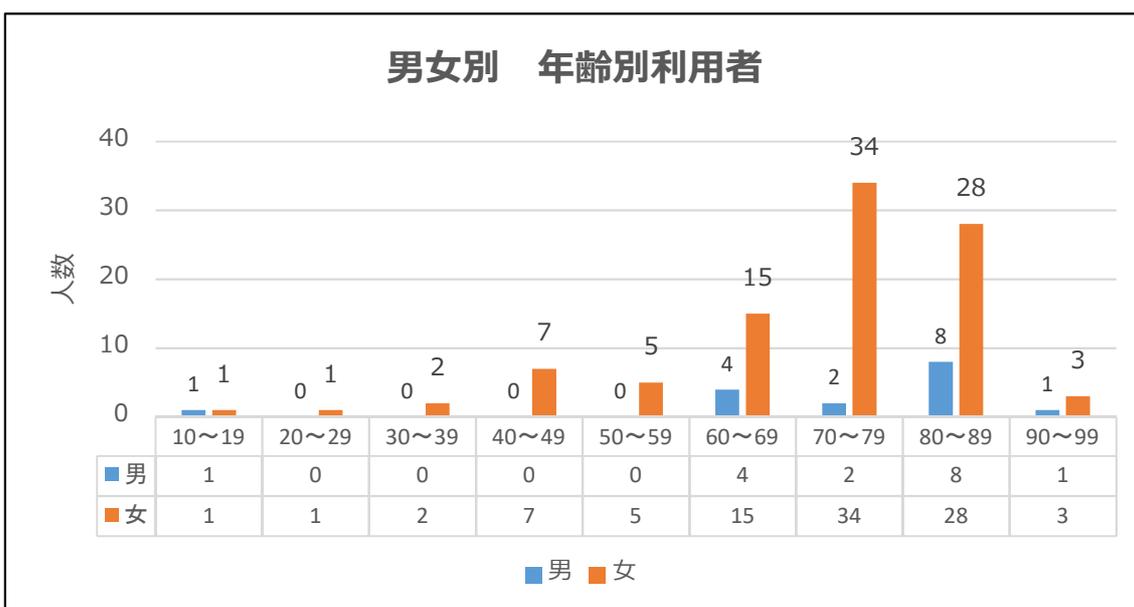
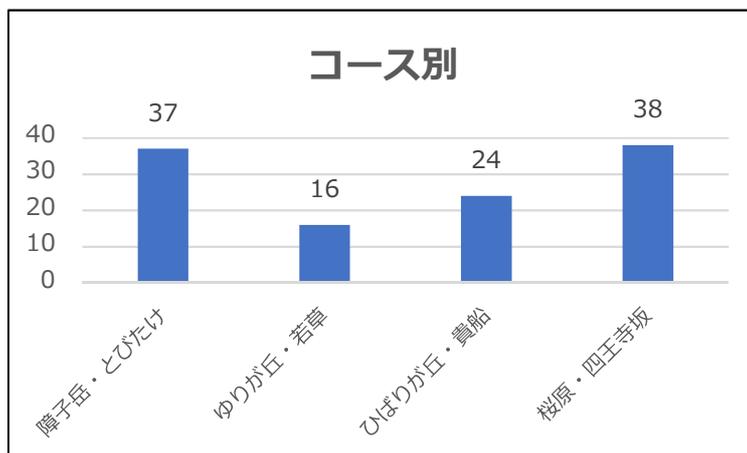


「ハピネス号に関するアンケート（車内）」の結果について

- 実施期間：令和3年11月26日（金）～令和3年12月3日（金）
- 対象者：ハピネス号に乗車された方（4コースすべてに乗車）
- 回答状況

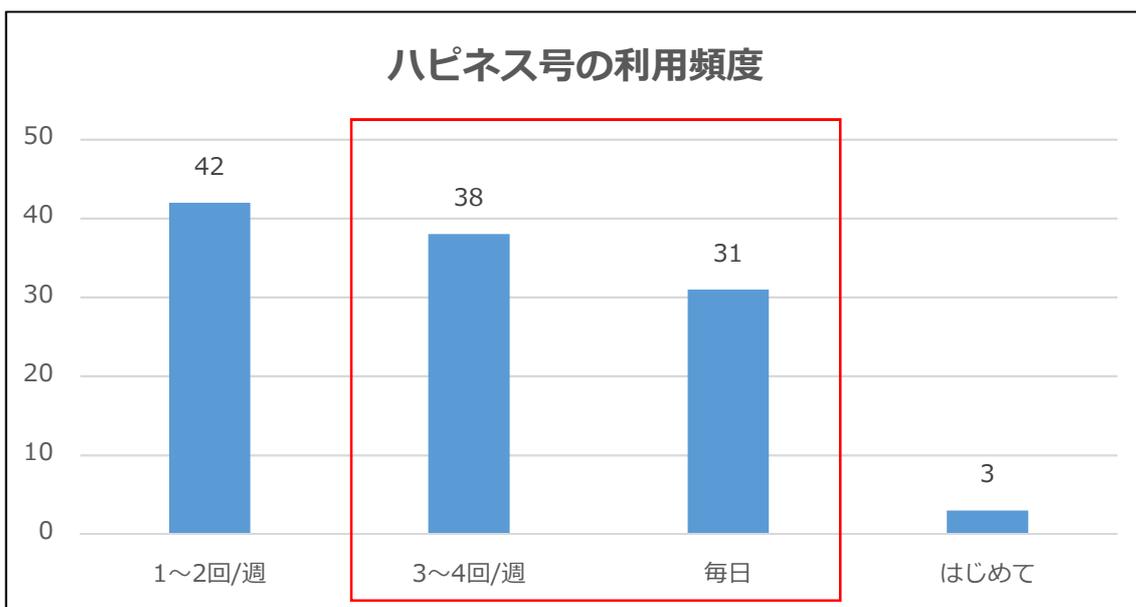
性別	
男	16人
女	97人
合計	113人

スマホの有無	
あり	57人
なし	56人

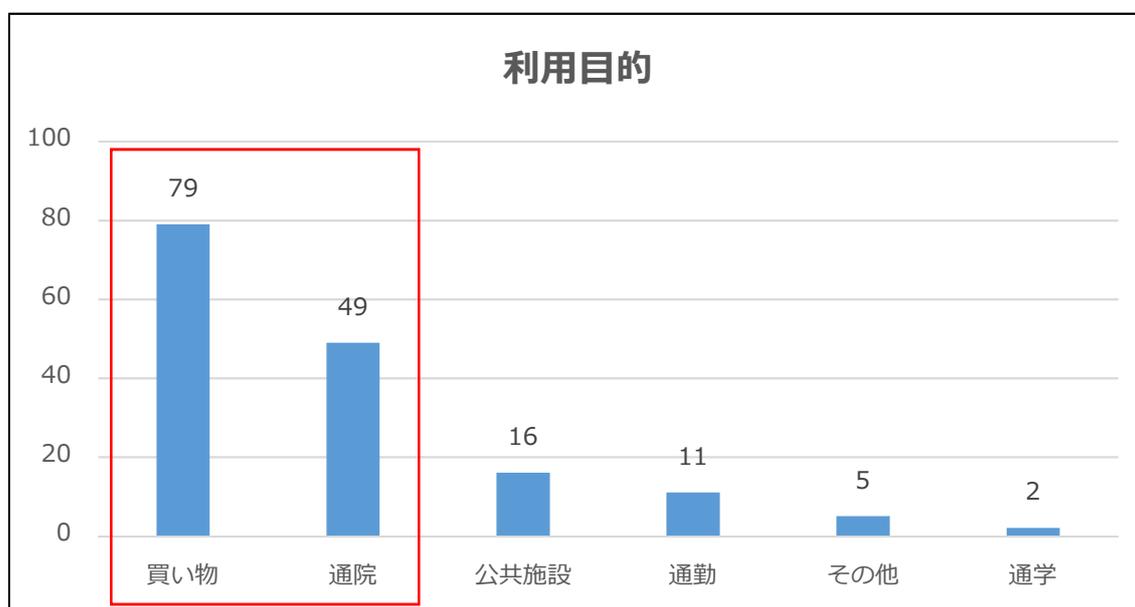


今回の「ハピネス号に関するアンケート（車内）」では、男性16人、女性97人、合計113人の方に回答していただくことができ、目標の100人を達成することができた。年代別の分布を見ると、60代以上の女性が多く利用していることが分かった。つまり、男性は60代以上でも自家用車を運転していると推察することができる。

スマホの所有率は、所有者と非所有者の割合は約50%だった。ただし、60代以上の所有者は、電話以外の機能を使用しないとの回答も多くあったので、オンデマンドバス導入の際には、アプリ予約を学ぶ場を設定することが大事である。また、やはり電話での予約についても必須であると考えられる。

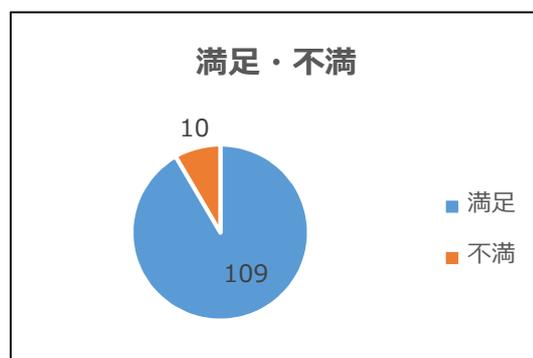
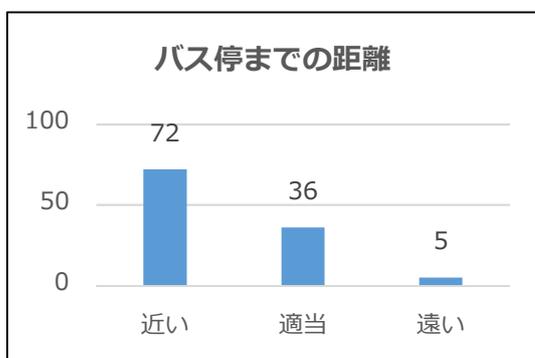
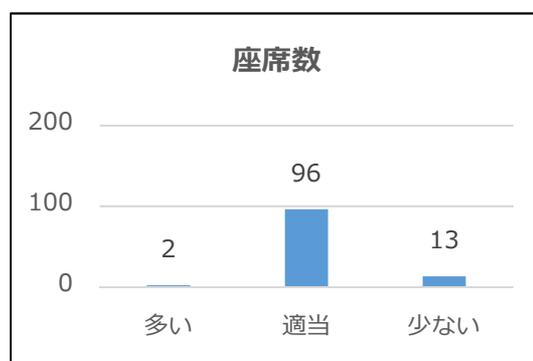
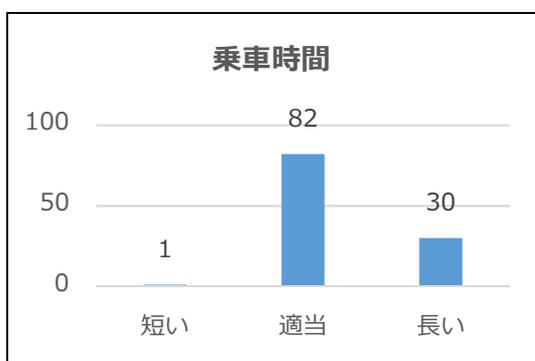
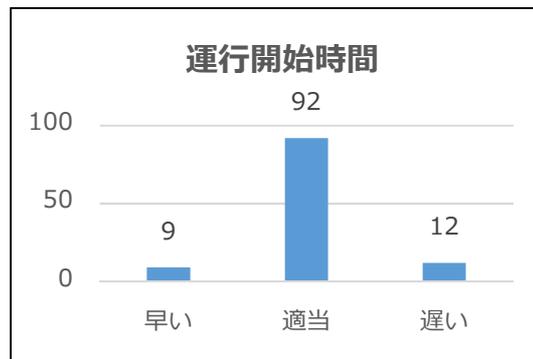
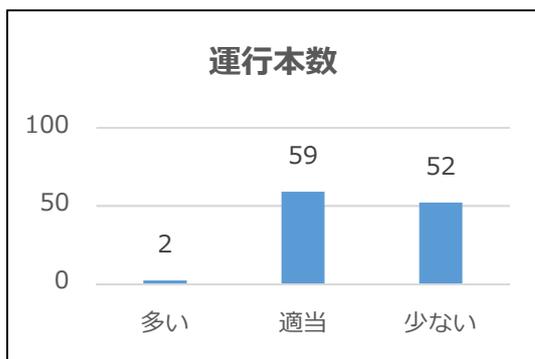


利用者の半数以上が、週三回以上のヘビーユーザーのため、オンデマンドバスへの移行の際は、予約が必須であることやコースが決まっていないことなど、現在の利用者にとって慣れないことがあるので、丁寧な説明を行い、移行がスムーズに進むようにしなくてはならない。



利用目的のほとんどが買い物と通院のため、オンデマンドバスの利便性や利用者の増加を狙うにはスーパーや病院の近くに乗降拠点を設置することが重要である。ただし、既存の交通機関とオンデマンドバスの棲み分けをしっかりと行う必要がある。

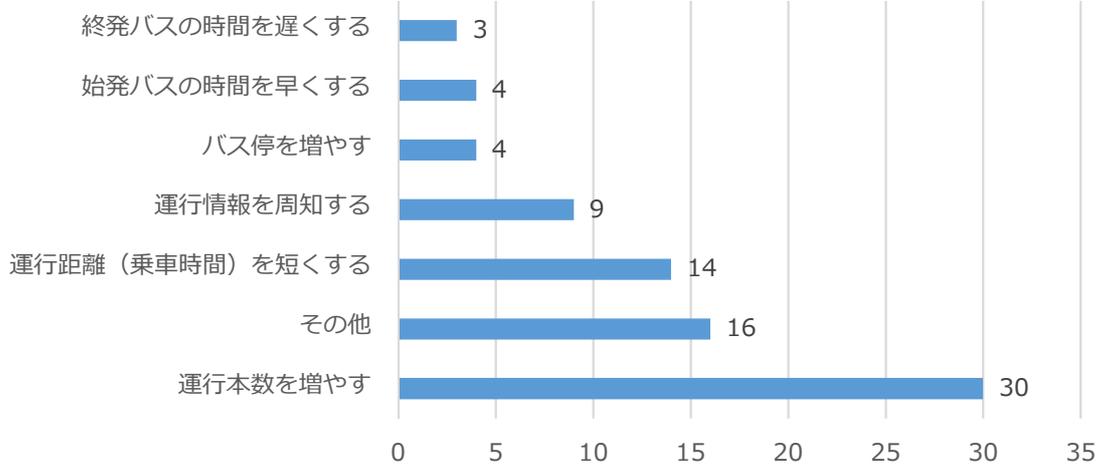
ハピネス号の運行形態について



現状で問題ないと回答する方が多く、利用者のほとんどの方が現状で満足されていることが分かった。しかし、裏を返せば不便に感じた方はそもそも乗っていないので、現在乗っていない方をどのようにして取り込むことが重要である。また、高齢者は、ハピネス号の時刻表に合わせたライフスタイルを築いており、普段使用する公共交通はハピネス号を頼りにしているため、「無料」で運行しているのもこれ以上のことは望めないとの声があった。

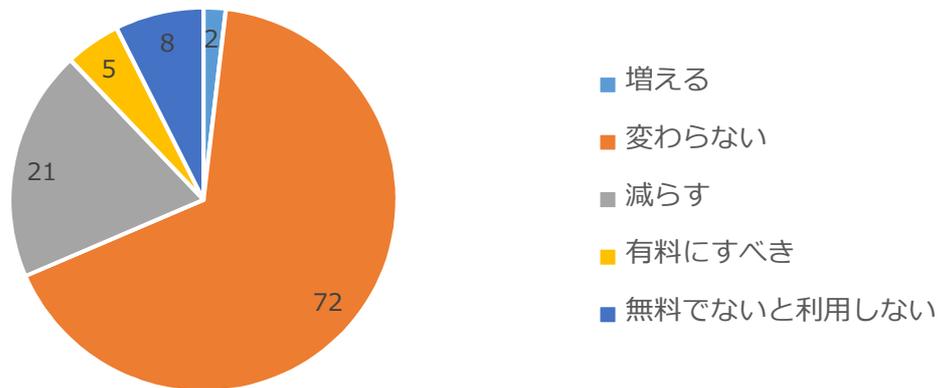
買い物や通院への行きはハピネス号を使用して、帰りは西鉄バスを使用するという意見もあった。

ハピネス号の利用者を増やすために必要な取り組み

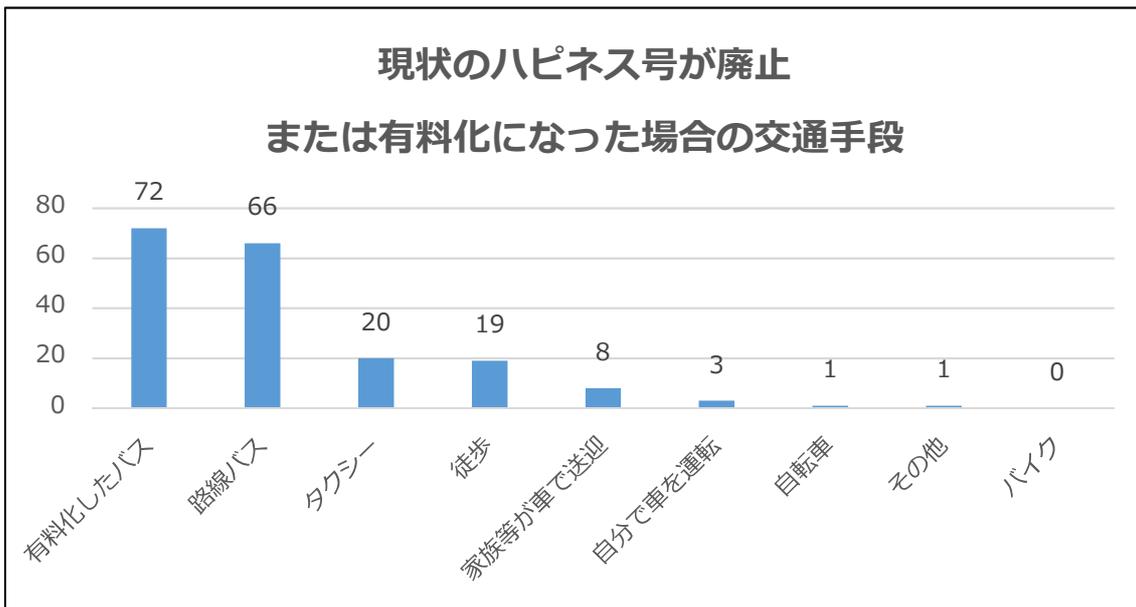


利用者の意見では、「運行本数を増やしてほしい」との声が一番多く上がっていた。その他の意見では、「ルートの見直しを行い、乗降者が少ないバス停は外す」や「逆回りルートの復活」、などがあった。

ハピネス号の運賃について



有料化しても8割近い方が利用頻度は変わらないと回答した。また、「100円」程度あれば、運賃をとって利便性があがるほうがいいとの回答もあった。ただし、「200円～300円」となると高いとの意見もあり、運賃の設定は既存の交通機関とのバランスを考えながら、クーポンや減免制度などの導入を検討する必要がある。



利用者の多くは、ハピネス号が廃止、有料化したとしても有料化したバスと路線バスを併用して使用するとの回答が多かった。そのため、オンデマンドバスを導入したとしても現在の利用者の多くは継続して町のバスを利用されると考える。